

B114

神田地区を舞台にした建築・まちづくり教育の実践的展開  
—ロジホン〜プラットフォームアネックスへの展開—

Practicing development of architecture and city planning education in Kanda  
- Development from ROJI-HON to PLATFORM ANEX -

西田 司 (研究員)

稲村 輝 (修士課程)

辻村 一義 (修士課程)

小林 克弘 (教授)

小塚 真太郎 (修士課程)

許 光範 (修士課程)

Osamu NISHIDA (Res. Assoc.), Katsuhiko KOBAYASHI (Prof.),

Hikaru INAMURA (Master Course), Shintaro KOZUKA (Master Course)

Kazuyoshi TSUJIMURA (Master Course) and Gwangbeom HEO (Master Course)

ABSTRACT

The researcher enters the town based on the satellite office in Kanda, resident's voice and unused ground in the town are discovered, and the improvement proposal is done. It is promoted to talent who has the conversation power for the student to achieve the proposal by the town and positive relations.

キーワード：記録集出版 コミュニティデザイン 実践型プロジェクト インテリアデザイン

Keywords: Book design, Community design, Practice type project, Interior design

1. 本研究の目的

神田地域に一昨年度より設けられているサテライトオフィス<CO-MET神田館>を軸に、まちに積極的に関わることにより、地域との連携を深め、そのなかで浮き彫りにされてくる住民の声や活かされていない街の未利用地(建築ストック)の賦活更新提案を行っていく。大学の研究活動がより地域と連携を深めていくなかで、関わる学生が住民の目線やまちの動向を臨場感を持って知ることにより、包括的な大きな研究的視点と具現化していくための小さな対話的視点を併せ持つ人材へと育成される実践的教育の場でもある。

2.1 研究概要 (ロジホン)

昨年度に行われた下町神田の路地再生プロジェクト<Re-STREET 神田>をワークショップ記録集としてまとめ、加えてインタビューや座談会を新たに催し、千代田区長をはじめ、地元町会の人々や、大学の研究者など様々な角度から街とそこで活動する人々と路地との関わりやまちの風景についての持論を展開してもらい併せて編集し、出版した。

2.2 研究概要 (プラットフォームアネックス)

神田に拠点を置き、空きビルを有効に活用しながら地域を活性化し、「現代の職人の街」としてSOHOまちづくりを展開しているプラットフォームスクエアからの要望により、その別館として、小



「ロジホン」  
2005年7月発刊  
発行 Paper編集室  
装丁 浜田武士  
編集は学生が行った。

写真 01.02.03 ロジホン写真



写真 04.05.06 既存ビル外観・内観写真

規模ビルの半地下倉庫部分を、シェアオフィスへとコンバージョンする計画である。求められたのは次世代の新しいワークスタイル・オフィス空間であり、ここでは「スイッチ」というキーワードを用いて計画を進めた。「スイッチ」とは文字通り「切り替え」を意味しており、スイッチのようにONとOFFを切り替え、オフィス空間におけるあらゆるシーンを柔軟に変更していくことで、これからのシェアオフィスに応じていくことを目指した。

### 3. 設計提案（プラットフォームアネックス）

具体的には以下の2つのスイッチ（切り替え）を行った。1つ目は従来の開放型のデスク環境からまるでロッカーに荷物をしまえるような収納型デスクへの切り替え、そして2つ目は「ワンデスク」ー「コモンスペース」という関係からそれらを集約させたツーデスクへの切り替えである。

1. 個人ブースを収納するかのように各デスクの前に折戸の扉を設け、ワーカーが働く時はその扉を「開き」、利用しない時には「閉じる」といった行為が行われる。このシステムにより常にきれいなオフィスランドスケープが展開されることとなる。また滞在者が流動的なシェアオフィスにおいて安全でプラバシー性の高い執務スペースが実現となり、セキュリティの面においても有効である。

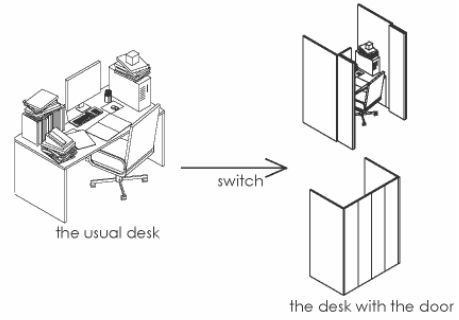
2. ここではプライベートな仕事用デスクとその背後にパブリックな収納付デスクの2つのデスクが各個人に与えられる。これらはインフォーマルなコミュニケーションが自然と生まれる空間的仕掛けとなり、ワーカーらの良好なコミュニティを形成する。このようにあらゆるスイッチ（切り替え）を各ユーザーが行うことで、これまでにない豊かなオフィス空間を作り出すことを意図した。

### 4. 展望

今回の計画はこのビルに対する個別解ではなく、ブースひとつひとつをパネル構法とし、その数と配置を変化させることで、空室が多く問題となっている神田のどんな中小ビルにも対応可能なシステムとしてSOHOまちづくりを推進する神田のまちづくりの拠点となるようものを目指した。本計画が反復されてゆくことで、神田の建築ストックが有効活用されてゆき、神田という街に「現代の職人の街」としての個性が生まれてゆくのではないかと考えている。

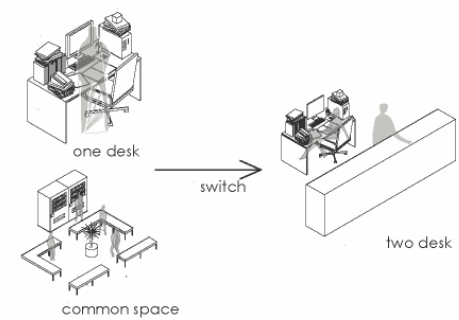
- プロジェクトリリース  
 日本経済新聞 2005年9月27日  
 「路地テーマにまちづくり冊子〜ロジホン〜」
- 書評（ロジホン）  
 新建築住宅特集 2005年10月号  
 デザインの現場 2005年9月号  
 ブルータス 2005年8月15日号  
 relax 2005年8月号

SWITCH 01 収納型デスクへのスイッチ



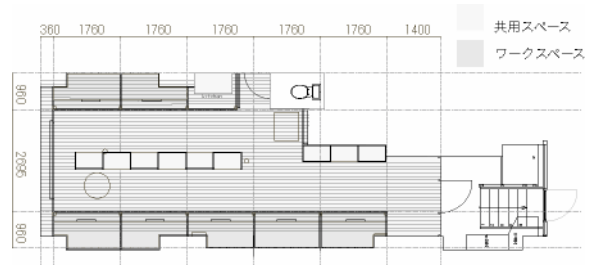
07

SWITCH 02 ツーデスクへのスイッチ

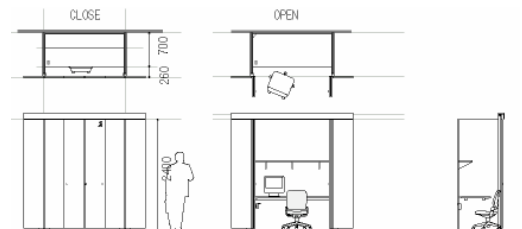


08

図 07.08 コンセプトスケッチ



09



10

図 09 平面図 図 10 展開図



11

写真 11 竣工写真